

快適で安心なマンションライフのために

カード de コミュニケーション



—— カードでハグくむ マンションコミュニティ ——

ゆるくても、いざというときは頼りになる、

マンションらしいコミュニティをハグくむために

年に一度のお正月、隣人にも意識を向けて、

「切手のいらない年賀状」を届けてみませんか？



マンションコミュニティ研究会

マンションコミュニティの現状は

都市の人間関係の希薄さがもたらす「無縁社会」ともいえる現状が大きな問題になっています。マンションも例外ではありません。生まれ育った地域との縁、親族との縁も薄れ、居住する近隣との縁も築けず孤立する人が、マンションの中にも少なからずいるのが現状です。それは、いつ孤独死や幼児虐待といった事件に直結してもおかしくない「安心居住」とはほど遠い状況ではないでしょうか。

■マンションコミュニティの現状は？

マンション管理というと、規約や総会という仕組みを適正に機能させ、建物や設備を適正に維持管理していくこと…そのために管理組合も関係者もがんばってきました。

でも、それだけでは何かが足りない。マンション居住者が、本当に安心して快適にくらすためには…。

その「何か」として「コミュニティ」がクローズアップされ、「コミュニティ形成」も管理組合の重要な役割といわれるようになりました。



■「コミュニティ形成」って、お祭りやサークル活動のこと？

しかし、コミュニティ活動の事例を聞いた理事長さんからは、ため息も聞こえます。

「ただでさえ役員は大変なのに、なんで管理組合がお祭までしなくちゃならないの。



ほとんどの人が総会にも出てこないのだから、役員がたいへんな思いをするだけだよ。」「大規模マンションならともかく、普通のマンションではとてもそこまでできないよ。」

そして、コミュニティ活動が盛んなマンションでも、みんながその輪に入っているわけではありません。まわりとつながりのない人はたくさんいます。

濃い付き合いが苦手な人、様々な事情を抱えている人は、どのマンションにもいます。

ほとんど近隣との付き合いがなく会合等にもまったく参加していない人が2割はいるのが私たちの社会です。そういう人も含めてのマンションコミュニティです。

■では、孤立しがちな人を放置していくいいのでしょうか？

人が安心して暮らすには、どこかでまわりの人とつながっているという安心感が不可欠で、孤立しがちな人も本当は「つながり」を必要としているはずです。まったく「つながり」がない「不安感」は、マンション全体にも影響を及ぼします。孤独死への不安は他人事ではありませんし、「不安感」は、時として「不信感」となって管理組合の合意形成や事業の実施の足かせにもなります。

「村八分」という言葉があります。これは裏返すと、どんなに仲間はずれの状況でも、二分は例外で付き合うという決まりだったということです。

当時はお葬式と火事、現代の二分は、「孤独死を防ぐ」と「大災害時の助け合い」ではないでしょうか。

現在は、まわりと共同しなくても暮らせる便利な社会ですが、どんなにがんばっても人は一人では生きられないし、最後の後始末も自分ではできません。核家族が当たり前、単身者も増加し、高齢化が進み、高齢一人暮らしもますます増える状況で、マンションにも二分のお付き合いは絶対に必要です。



【コミュニティのセーフティネットを】

特にイベントをしなくとも、よいコミュニティが築かれているな、と感じるマンションがあります。お住まいの方が自然にあいさつや言葉を交わし、あまり付き合いのない近隣にもさりげなく気を配り、何かあったら助け合っていこうと、多くの人が思っているマンションです。

■どうしてうまく「つながり」が築けないのでしょうか？



「無関心」とくくられるマンション居住者ですが、一人一人は、決してそうではありません。ほとんどの人は、個人の生活に踏み込まれたくないと思うのと同時に、気持ちのいい近隣との関係は必要で、いざというときは近隣で助け合いたいと思っています。でも、きっかけがないのです。どのように働きかければよいかわからなかったり、近い存在ゆえに慎重になっているのです。

近隣と親しく付き合いたいと思う人の4割はそれが実現できていません。自分が親しくしたいと思っても、相手はどう思っているつかめず、距離のとり方が分からなのです。

さらに、不安な世相を反映して、セキュリティ重視、プライバシー・個人情報保護への過剰な意識がマンション内でのごく普通のふれあいすらにくくしています。

■どんな「コミュニティ」をつくっていけばいいのでしょうか？

普段はそれぞれの生活を大切にし、あまり濃い付き合いはしていないとも、さりげなく周囲に気を配り合い、どこかでちゃんとつながっているという「安心感」を感じながら暮らせる…そんな、新しい都市型コミュニティをつくっていきませんか。ゆる～くても、芯はあたたかい「きずな」でつながるコミュニティです。



まずは、できる人から、一人一人が負担なくできる小さなことから取り組んでみませんか。忙しい人にも、人と話すのが苦手な人にもできる、そんな方法から…。そして身近なお隣さんから…。

コミュニケーションの手段は直接会話だけではありません。「あいさつ」をかわす関係をもう一歩進めるために、コミュニティの中で、ちょっとした気持ちを伝え合う方法として「カード」を活用してみませんか。

■まずはお正月の年賀カードから始めてみませんか？

お隣同士、上下で暮らすことになったのも「ご縁」です。年1回、その縁を思い起こし、遠い友人に近況を知らせるように、年賀カード=「切手のいらない年賀状」をメールボックスに届けてみませんか。共同生活は知らぬ間に人にお世話になったり、迷惑を掛けたり…なかなか面と向かって言うチャンスはないけれど、せめてお祝いと感謝の気持ちをカードに託して伝え合ってみませんか。



「カードを送る」というちょっとした勇気をきっかけに、人の心の扉がゆるみ、ささやかな「つながり」が生まれる。それがだんだん育ち、コミュニティのセーフティネットがゆるやかにつくられる…そんな未来を一緒につくりましょう。

お隣・上下の方に年賀カードを書いて届けてみよう！

■新年のあいさつを自由にカードを書いてみましょう！たとえば…

123号室 山田様

明けましておめでとうございます。

何かとお世話になるかと思いますが、
今年もどうぞ宜しくお願ひします。

122号室 川口

普段から親しいお隣さんへは…

812号室の皆さま

隣の岡本です。新年おめでとうございます。
お隣同士、今年もよろしくお願ひします。

今年、一人娘が小学校に上がります。

813号 岡本

表札が出ていないお隣にも、あいさつを…

手書きの文字には気持ちを伝える力があります！

四三二号 高田

今年もどうぞよろしくお願ひします。
遠慮なく連絡ください。
何か不都合がありましたら、
普段できちんとする機会がございませんが、
上階の高田です。お世話になつてあります。

山口様

普段、会う機会がない、
下階の方にも…

会えば簡単なあいさつ
程度、でもあまり家族の
状況もお互いよく知らなかつたら…

文字を書くのが苦手なら、
ただ一言「おめでとう！」
でも「今年もよろしく！」
でも充分です。

1005号室

高橋家のみなさま

明けまして
おめでとうございます。
当方、子どもも独立し夫婦
二人暮らしです。小さなお子
さんの声が聞こえるのは大歓
迎ですので、何かお手伝いで
きることがあつたらお声をか
けて下さい。

皆さまのご多幸を
お祈りしております。

元旦 1006号
中田一郎・美子

カードに余裕があつたら、管理員さんや理事さんに書いてみませんか。

カードを書いたら

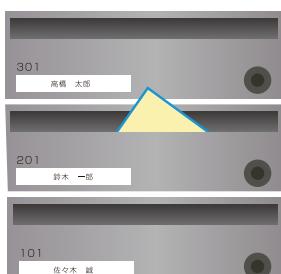
カードをメールボックスへ！

年賀カードは、それぞれのお宅のメールボックスへ投函しましょう。

三が日にこだわらず、1月7日頃までの気がついたときに。

玄関ドアに新聞受けがあるタイプでしたら、玄関でも。

最近は、集合郵便受けの投入口への入り口が施錠されているマンションも
あります。その場合は、管理員さんにいって開けてもらいましょう。



普段でもコミュニティ・カードを活用しよう！

■ちょっと伝えたいことがあるとき カードに書いて、メールボックスに！

814号室の大木さま
隣の岡本です。8月5日～25日ごろまで
家を留守にします。ご迷惑をかけることが
あるかもしれません、よろしくお願ひします。
何かございましたら、090-1111-2222へ
ご連絡頂ければうれしく思います。

813号 岡本

長期間、家を留守にするときに…

誕生会でたくさん子どもが集まる日の前日に…

1005号 高橋様

いつもお世話になっております。

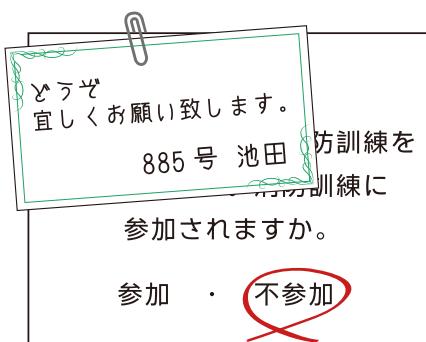
今度の日曜日、午後3時から6時まで
子どもの誕生会で、子どもたちが集ま
ります。お騒がせすることもあるかも
能性があるかもしれませんが、どうぞよろしくお願
ひいたします。

何か不都合がございましたら、お声を
かけて下さい。

10月8日
1006号 中田

[その他にも様々のシーンで…]

- ・「引っ越しのあいさつに伺ってお留守だった」ときに、まずはカードでごあいさつという使い方もできます。
- ・うっかりうるさくしてしまったかな…というときの後からのお詫びにも使えます。
- ・「家族が増えたときのあいさつ」もステキですね。



ちょっとメッセージを伝えたいときに

- ・理事会や消防訓練に欠席の連絡をするときや、
委任状に、ちょっと一言そえてみませんか。
- ・管理員さんや清掃員さんに、「いつもありがとう」と伝えるのにも。



コミュニティの中での名刺代わりに

- ・理事会の役員同士、お互いの部屋番号や名前、
メールアドレスの交換に。
- ・懇親会で、名前を書いて胸につければ、
お互いが親しくなるきっかけに。
出身地や趣味を書いておくと、会話のきっかけになります。

Q なぜコミュニケーションに「カード」を使うの？

お隣とコミュニケーションをといっても、何か用事がないと訪ねてはいきにくいものですし、相手の都合を考えてしまいます。あまり親しくない関係で、直接会って会話をするのは何となくおっくうでいつか…と思っているうちに日がたってしまいます。

でも、カードにちょっとあいさつの言葉を書いて、メールボックスに入れることならできそうではありませんか。「カード」で気持ちを伝えるのも立派なコミュニケーションです。

マンションには、このくらいの距離感のコミュニケーションがちょうどいいと感じます。そして、役員の方にも居住者の方にも負担にならない形でコミュニティづくりの一歩を踏み出せます。



Q なぜお正月の年賀状なの？

「カード」を使ったコミュニケーションは、様々な場面で使えます。とはいっても、カードを送る習慣は、日本ではまだまだ一般的ではありません。最近は葉書を書くことも少なくなりました。

でも、お正月だけは別です。インターネット社会になっても、年賀状は、まだまだ日本人の習慣です。

近隣へ「カード」を送る取り組みを、もっとも始めやすいのがお正月ではないでしょうか。

普段はあまり意識することがないお隣同士でも、新年を機会に、年に1回ぐらいは、

あいさつを交わし、近況を知らせる…「切手のいらない年賀状」を届け合うことが、

親しい間でのあいさつはもちろん、普段あまり付き合いがない関係でも

「つながり」を築くよいきっかけになります。



Q なぜマンション全体で取り組むの？

この「カード」コミュニケーションは、ちょっとした勇気があれば、もちろん一人でもチャレンジできます。でも、突然カードがきたら、びっくりするのではないかと相手の反応も気になります。

マンション全体で取り組めば、カードを送る趣旨がみなさん伝えていますので行動しやすくなりますし、受け取る側も安心です。

また、思いはあっても、カードを用意したり、何を書こうかと考えているうちに時間が過ぎてしまい行動につながらないものです。使用する「カード」を管理組合や自治会が用意してみなさんにお配りして行動しやすい環境を作ることで、「カード」コミュニケーションを試みる人の輪が広がります。

全国のたくさんのマンションで、たくさんの居住者の方がこの運動に参加しています。

ぜひあなたも、まずは「切手のいらない年賀状」を届けることから、やわらかいコミュニケーションを始めてみましょう。

**コミュニティ形成の第一歩は、一対一のつながりです。
どんな立派な理屈より、小さな行動の積み重ねに価値があります。
第一歩を踏み出しましょう。**

Q カードに関するメッセージ

■ 30代・男性

初めての子供が生まれ、出産と共に仕事をやめた妻が、家に子供と2人きりで過ごすことに不安と苛立ちを感じて困っていたときに、同じマンションの方からベビーサークルに参加しませんかというお誘いのカードが届きました。それをきっかけに、マンション内に同じ子育て中の友人ができ、妻も明るくなりました。あのカードにはとても感謝しています。

■ 20代・女性

マンションに引っ越して、下のお宅へあいさつに行ったのですが2度続けて留守でした。その後、階が違うのでついそのままになってしまいました。家にはまだあいさつのタオルがありますが、すでにあいさつの時期を失していく、どんな方か、非常識と思われていないかずっと気になっています。コミュニティ・カードがあったら、お留守でもまずはカードであいさつができたのにと思います。今度はぜひ使ってみます。

■ 70代・男性

自治会長をしていて、引きこもりの高齢者とどうコミュニケーションをとるかが悩みの種です。今年のお正月は1人暮らしの高齢居住者に20枚ぐらい年賀状を書きました。お年玉年賀はがきを書いてポストに入れたのですが、考えてみたら、集合郵便受けに入れるなら切手もいらないし、住所も書かなくていいんですね。今度はそうしてみます。相手の手元にもすぐ使えるカードがあれば、返事を書いてもらえそうですね。



■ 60代・男性

昨年、思いもよらずお隣の方から年賀状をもらい、びっくりしたけど、うれしかったです。思えば、最近ずっとお会いしていなかったな…と。それをきっかけに久しぶりにあいさつに行き、話がはずみました。

■ 40代・女性

夫婦で海外に長期出かけることがあって、お隣には声をかけたいのですが、あいさつに行くと、どこに行くかとか、いろいろ話さなければならなくなり、何だか自慢しているようで気が重かったので、カードでさりげなく伝えていました。マンションにはそれぐらいが本当にちょうどいいと思います。

あなたのちょっとした勇気が、マンションの風土を変えていく一粒の種になります。
それが、いずれ、ゆるくても温かい、
いざというときは隣人が頼りになると信じられる、
安心して暮らせるマンションコミュニティという大きな森に育ちます。

私たち、マンションコミュニティ研究会は、「集まって住むってステキ！」が常識になる未来をめざしています。マンションが、人の気持ちを察し心を配りながら誰かのために今自分ができることをする喜びを学ぶ学校として機能し、マンションという集住のスタイルが本当に価値あるものになるための実践的研究、活動を、この「切手のいらない年賀状」を送る運動から始めようと思います。

マンションコミュニティ研究会

「カード」を送ってみた、もらった、その時の感想やエピソードをお寄せ下さい。

カードに関する感想やエピソードを、下記にご記入の上、**FAX 044 - 752 - 8037**へお送り下さい。

お待ちしております。なお、マンションコミュニティ研究会ホームページからも、直接およせ頂けます。

使ったカード	<input type="checkbox"/> 年賀カード <input type="checkbox"/> コミュニティ・カード（名刺サイズ） <input type="checkbox"/> コミュニティ・カード
場面	
送った又は頂いた相手	
カードの内容	
感想・エピソード	
アンケート	<p>①「年賀カード」はどの形が使いやすかったですか <input type="checkbox"/> 縦型カードに横書き <input type="checkbox"/> 横型カードに横書き <input type="checkbox"/> 縦型カードに縦書き</p> <p>②「コミュニケーションカード」はどちらのサイズが使いやすかったですか <input type="checkbox"/> はがきサイズ <input type="checkbox"/> 名刺サイズ</p> <p>③性別、年齢を差し支えなければお聞かせ下さい <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 20歳未満 <input type="checkbox"/> 20歳代 <input type="checkbox"/> 30歳代 <input type="checkbox"/> 40歳代 <input type="checkbox"/> 50歳代 <input type="checkbox"/> 60歳代 <input type="checkbox"/> 70歳代 <input type="checkbox"/> 80歳以上</p>
ご意見	

き
り
と
り
せ
ん

ご協力ありがとうございました。貴重なメッセージを今後の活動に生かしてまいります。

協賛：

制作：



TEL : 090 - 7829 - 7094 FAX : 044 - 752 - 8037
e-mail : info@mckhug.com URL : http://www.mckhug.com